

高速道路での逆走対策に関する有識者委員会（第2回）

議事概要

1. 日時 平成28年2月26日（金）16:00～18:00

2. 出席者委員

朝倉康夫委員長、稲垣昇委員、春日伸予委員、鎌田実委員、蓮花一己委員、国土交通省道路局長、国道・防災課長、高速道路課長、自動車局技術政策課国際業務室長、警察庁交通局交通企画課長、東日本高速道路(株)管理事業本部副本部長

3. 議事概要

〈資料2：第1回官民連携会議の結果報告〉

- 民間企業の技術開発については、その技術が普及するだけでなく、ユーザーがきちんと使用できることが重要であり、今後上手く啓発していくことが必要
- 標識読み取り技術について、ある程度デザインを統一することで、読み取り側の負担が軽減できるので、事前によく調整することが必要
- カーナビでの警告について、警告だけでなく、どういう行動をしたらよいか、わかりやすく教える必要がある

〈資料3：逆走事案の詳細分析について〉

- 対策の方向性として高速利用初心者系と認知症系とに大別されるとの認識。前者は予防的な対策が可能だが、後者は難しいと思われ、逆走発生後の対策にならざるを得ないと思われる
- 高齢者の高速道路利用頻度は低いため、初心者に対する講習のように、高齢者講習が有効と思われる
- 入口料金所の手前で逆走が多い理由として、普段高速道路を利用しない人が、道間違いを起こして過剰に反応したために逆走したのではないかと。料金所で相談するなどの方法を周知することで落ち着いた行動に結びつくと思われる

〈資料3：今後の調査方針について〉

- 今後実施する追跡調査の結果を、今後の聴取項目やデータ分析項目に反映していく必要がある
- 認知症専門医等へのヒアリングについて、医学分野では高齢者・認知症の交通安全に対して関心が高まっており、高齢者心理学等を研究している方々と連携するとよい

〈資料4：全体的な逆走対策の考え方（整理表）について〉

- 逆走が発生しやすい箇所での注意喚起など、予防的な対策に関する記述も追加してほしい
- 故意で逆走する人に対して、わかりやすい案内や注意喚起はあまり意味がないので、もう少し記載内容を工夫すべき

〈資料4：ロードマップ(案)について〉

- H26年度に逆走対策を実施した箇所で4件の逆走が発生しているが、この詳細な発生要因を深掘りする必要がある
- 航空機事故の重大インシデント並の対応をしなければ、「逆走事故ゼロ」という目標は難しいかもしれない
- ロードマップは今後の大きな方針を示すために作成したもの。当委員会としては基本的にこの案で了承

〈資料5：対策試行の公募について〉

- 各社が様々な方法で試行していくと思うが、ユーザー視点から考えれば、いずれは標準化していくことが望ましい
- 試行する対策内容について、委員からも知恵を出していきたい

以上